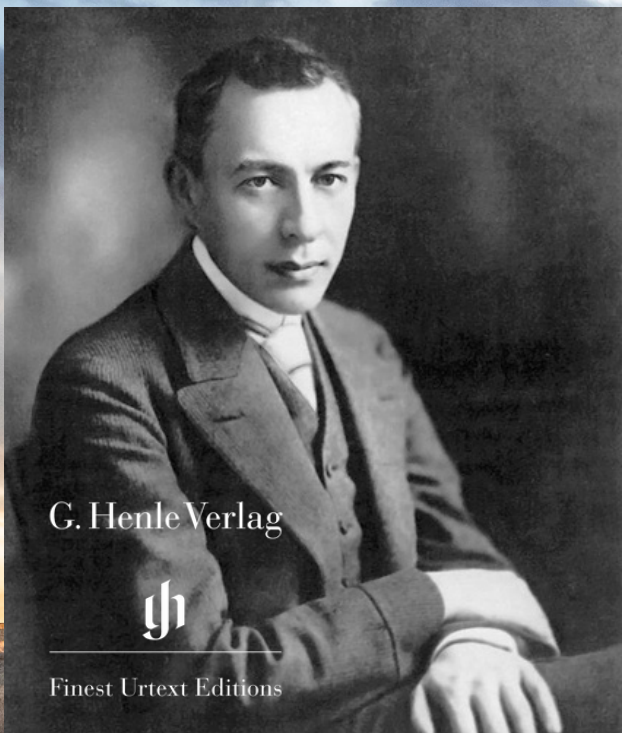


後期ロマン派のピアノ協奏曲の最高峰であり、ピアノ協奏曲の「花形」

S. ラフマニノフ

ピアノ協奏曲 第2番 OP.18



G. Henle Verlag



Finest Urtext Editions

この作品は ...

- 1900年秋から1901年春にかけ、ロシアの田舎にある夏の別荘とモスクワで作曲されました。
- 1897年に初演された交響曲第1番は酷評を受け、その後ラフマニノフは3年間にわたり大きな作品を完成することができませんでした。そこで彼は創作の危機を克服しこのピアノ協奏曲を仕上げるため、心療内科の治療を受けました。
- ラフマニノフは感謝の意とともに、この作品を担当医のニコライ・ダーリ氏に献呈しました。

ヘンレ版について

- モスクワにある自筆譜に基づく初の原典版で、この目的のためだけに資料が提供されました。
- フルスコアはブライトコプフ&ヘルテル社のために同時に編集されたもので、ピアノスコアとともにパート譜がすべて新たに揃いました。



もっとも有名な

... パッセージ

第1楽章の冒頭部分はピアノの力強い和音に続き、弦楽器がロシアの優美なメロディーを奏でます。

... 演奏家

ラフマニノフ自身がアメリカだけで80回もの演奏を行いました。
その後：ホロヴィッツ、ルービンシュタイン、リヒター、ヴァン・クライバーン、アシュケナージなど。

... ポップカバー曲

エリック・カルメンが1975年にシングル『All by Myself』を発表し、緩徐楽章のメインテーマを使用。
当時この作品はまだパブリックドメインではなかったため、カルメンはラフマニノフの法定相続人に著作権料を支払わなくてはなりませんでした。